

図書館情報学橋会会報 第7号(通号13号)

2009年3月発行 発行者 社団法人茗溪会支部図書館情報学橋会

素晴らしき先輩たちの心意気を繋いできたい

図書館情報学橋会会長 森 茜

私は、このたび、長い伝統ある橋会の会長の職をお預かりすることとなった。

橋会との出会い

私が「橋会」の名を聞いたのは、母校を卒業してから20年もたってからのことだ。

あの頃、私はとても貧乏だった。私が母校を受験したのは、ひとえに授業料を払うことなく、無料で、職業訓練をしてくれるということに魅力を感じていたからだ。が、受験の頃「図書館職員養成所」であった母校は、合格したら、「図書館短期大学」になってしまった。そう、私は図書館短大別科の1期生だ。

卒業後、文部省調査課図書係に就職した。文部省では行政職に転じ、学術行政や青少年行政・婦人行政に携った。そして、42歳になったとき、図書館の資格を考慮され、国立大学の図書館課長に転出した。その後、約20年、大学図書館の現場で仕事をした。橋会の名前を聞いたのは、初めての課長職となった東京学芸大学の図書館で、同僚の加藤宗晴氏からだ。確か、父君が「日本件名標目表」で高名な加藤宗厚氏と聞いている。根っからの図書館人の加藤氏は、図書館初心者の私に、沢山の有名な図書館人の名を挙げ、それらの多くが“養成所”の修了生であることを教え、「橋会」について熱く語った。

しかし、“組織”の嫌いな私は、「橋会」に関心を持たなかった。私が橋会と真剣に向き合うようになったのは、図書館情報大学の事務局長となって、当時の吉田政幸学長とともに、それまで別々に活動していた「橋会」と「図書館情報大学同窓会」の統合に立ち会った時からだ。その後から、

会の名前が「図書館情報学橋会」となった。丁度その頃、大学は創立80周年を迎え、対外的アピールを図るため、日本橋の丸善で、「メディアそれぞれの時代」と題する大きな蔵書展を催すこととなった。

阿刀田 高さんのこと

私が阿刀田高さんにあったのは、蔵書展のメインイベントとして、この大先輩に講演依頼に行ったときだ。当時の藤野幸雄副学長とともに、東京・井の頭線沿線の瀟洒なレンガ塀のご自宅に伺った。私たちは、阿刀田さんと何の接点も持っていなかった。ただ、養成所の昭和36年卒業生だという情報だけを頼りに、おずおずと伺い、三方がびっしりと書物で埋まった書齋に通され、もごもごと話を切り出すと、実に気持ちよく、快諾してくれた。講演会は大成功だった。阿刀田氏の講演は、奥様の朗読と相俟って、ふくよかで、味わい深い講演だった。

私が阿刀田氏の人柄に心打たれたのは、講演終了後のお茶のときに聴いた、氏の一言だった。氏の著作の中では、国立国会図書館や早稲田大学時代のことは出てくるのに、養成所には触れられていない。そのため、この依頼は断られるのではないかと危惧していたことを述べたとき、氏は「養成所も私の歩いた道ですから。私の細胞のひとつひとつが落ちたところですから、大切にしていますよ。」と、やわらかく笑みを浮かべられた。私は嬉しかった。以後、私も、私の細胞の一つ一つを大事にするようになった。

図書館情報大学は、それ以降、筑波大学と統合

するまで、阿刀田氏に、大学運営委員会の委員をお願いした。あの高名な直木賞作家の阿刀田高氏が、同窓生の一員として、この小さな母校の運営に、丁寧に付き合ってくださいましたことを、同窓生のみんなに知ってもらいたい。そして、このよう

な先輩を持てた幸運を、とても誇りやかに思う。

私の仕事は、こうした素敵な生き方をしている先輩を、一人でも多く、同窓生の皆さんに紹介していくことだと思う。



行ってきました筑波大ホームカミングデー

筑波大学の学園祭に合わせて、去る平成 20(2008)年 10 月に開催された「第 11 回筑波大学ホームカミングデー」に出席してきました。この催しは卒業から 20 年を経た卒業生を迎えるとのことで、今回は昭和 63(1988)年 3 月(昭和 62 年度)の卒業生が対象です。私は今回の対象学年であり、この機会に 20 年前と様変わりしたつくばを見るのも一興かと、参加することにしました。

卒業から現在に至るこの間、筑波大学への統合に伴う母校の消滅もあり、このホームカミングデーにどれだけの参加があるのか不安でしたが、その不安が現実のものになったのは残念です。図書館情報大学の卒業生は 8 名のエントリーがあったということですが、当日顔を合わせることができたのは大学に残っている阪口哲男准教授を含む 4 名にとどまりました。私は事前に「図情大卒業生代表」で近況報告を、という筑波大学事務局からの連絡をいただき、3 分ほど参加者の前で話させていただきました。

会場で、私が現役学生の頃からいらっしゃる石塚英弘先生にお会いできたのは幸運でした。春日キャンパスまでお車を出していただき、ありがとうございます。

大学会館での行事が終わった後、阪口くんの案内で閑散とした春日キャンパスに立ち寄り、休憩室で昔話をしたり昨今の状況を情報交換したり、春日キャンパスで在籍中には存在していなかった施設などを見学させていただいたりして過ごしました。同期生が解散した後は、現役の学生の卒研に関わるお手伝いを引き受け、さらに夜は現役の院生に宴席を設けていただきました。21 時半頃までつくばにいても実家(栃木県)に帰りつけるのは「つくばエクスプレス」のおかげです。現役の頃、「常磐新線昭和××年開業(予定)」という看板を見たのが夢のようです。

私はたまたま、現役の院生・学生とつながりがあり、夜までつくばで宴席にお付き合いしてもらい、昼も夜もいづれ劣らぬ楽しい時間を過ごせました。しかし現状では、感情的なものもあって「筑波大学」のホームカミングデーに図情大の卒業生が参集するのは、なかなか難しいのではないかと受け止めています。会場の大学会館に図情大の卒業生は、ほとんどなじみがありません。何度か行ったことのあるはずの私も迷って右往左往してしまいました(恥ずかしい)。今後のためにも一考を要するところです。

(和知 剛 図情大 昭和 63)



石塚英弘先生と参加者一同



ホームカミングデー会場
(大学会館)

～筑波大学の教育組織が再編成されました～

筑波大学学群学類の再編成と橘会

平成19年度より、筑波大学の学群・学類が再編成された。創設以来行われてきたナンバー学群と言われる第1・第2・第3学群という名称が廃止され、「人文・社会」「理工」「情報」等のように、意味内容を表わす名称に変わった。

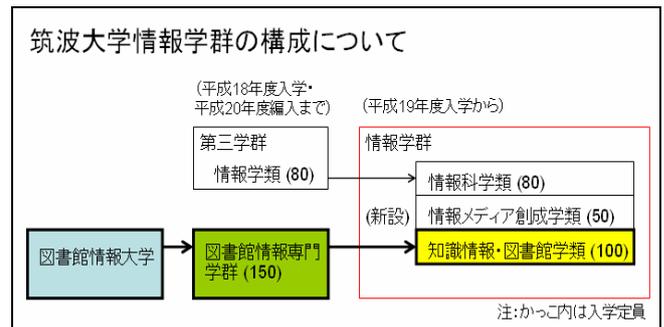
この再編成に際し、図書館情報大学の後継組織である『図書館情報専門学群』は新設された『情報学群』の中の『知識情報・図書館学類』となった。“学群”というのは他大学の“学部”に、“学類”と言うのが“学科”に相当する。図書館関係は、いわば、“情報学部知識情報・図書館学科”になったわけだ。

大学統合によって平成15年4月に入学した図書館情報専門学群学生は、平成22年3月の卒業生をもって最後となり、平成23年の卒業生からは、新生“情報学群知識情報・図書館学類卒業生”となる。そし

て、そのいずれもが、正統な図書館情報大学後継組織の学生として、私たち『橘会』の同窓生仲間になる、というわけだ。

橘会は、図書館情報学の発展を祈り、筑波大学の新しい『知識情報・図書館学類』の発展を応援して行きたいと思う。

(森 茜 図短別40)



情報学群と図書館情報メディア研究科の関係

筑波大学図書館情報メディア研究科長 中山伸一

筑波大学は法人化に伴い、教員組織を大学院組織に一体化させた。それにより、研究科長は大学院組織の長であると同時に、教員組織の長となった。その視点で、新しくできた情報学群の状況について少しご紹介する。

情報学群は、「知識情報・図書館学類」、「情報メディア創成学類」と「情報科学類」からなる。前二者は図書館情報専門学群の定員を振り分けたため春日キャンパスで授業を実施し、「情報科学類」は第三学群情報学類の流れから天王台キャンパスで授業を行っている。

「知識情報・図書館学類」の授業は図書館情報メディア研究科の教員が担当しているが、「情報メディア創成学類」の授業は本研究科とシステム情報工学研究科コンピュータサイエンス専攻の教員がほぼ半々で担当している。その意味で本研究科は、予算面や施設面、ティーチングアシスタントの配置などで両学類と密接な関係を持つと同時に、両学類が順調に立ち上がるよう様々な面で積極的な支援を行っている。今後の課題として、両学類の卒業研究を研究科としてどのように支援していくか、本研究科の情報メディア創成学類に関わる教員人事をどのような形で行っていくかなどがある。

知識情報図書館学類の教育

筑波大学知識情報・図書館学類長 溝上智恵子

平成19年度の学群再編に伴い、情報学群の1つとして誕生した知識情報・図書館学類では、図書館情報学分野における人材養成を行うとともに、現代の知識基盤社会を発展させるための人材も養成していくことを教育の目標としている。

学生は、専門基礎科目として、文理にわたる幅広い領域の基礎理論や技術を学び、そのうえで、3年次から3つの主専攻に分かれて、専門科目を中心に専門的知識を深める仕組みとなっている。この3つの主専攻とは、①知識科学主専攻が知識と情報の共有現象を、②知識情報システム主専攻が知識情報技術を、③情報経営・図書館主専攻が知識共有の制度と文化、知識情報資源のマネジメントを体系的に学ぶ点に違いが置かれている。

本学類の教育課程の特徴の1つに、各年次に必修科目として演習や実習を配することにより、応用的・実的な文脈で個別の科目で学んだ意義や相互の関連性を総合的に理解できる点を挙げることができる。現在は学年進行中であるため、これらの新しい取り組みがいかなる効果を生み出すのかまだ断定できないが、学生諸君の状況を踏まえつつ、さらなる教育の改善を行っていく予定である。

藤野幸雄先生の喜寿を祝う会が開かれました

図書館情報大学副学長を務められた藤野幸雄先生が平成20年7月6日に喜寿を迎えられ、前日の5日に「藤野幸雄先生の喜寿を祝う会」が東京・銀座ライオン5階の音楽ビヤプラザで開かれました。「祝う会」には図書館界ゆかりの方々、筑波大学の先生方、教えを受けた卒業生多数が参加し、藤野先生と旧交を温めました。出席者には、藤野先生が選ばれた名品の佃煮と、この日の記念冊子『七十七年の回顧-喜寿を迎えて-』が配られました。冊子の内容は、七十七年の回顧、藤川さんのこと、明治の図書館員の死、わたしの酒、巻末付録の著作目録・年譜から成ります。その年譜からまず先生の経歴をご紹介します。

藤野幸雄先生は、昭和6年前橋市生まれ。東京外国語大学ロシア語科、文部省図書館職員養成所を卒業。昭和54年に図書館短期大学教授、翌年から図書館情報大学教授、平成5年～11年には副学長を務められました。平成11年退官後は名誉教授。現在は石川県金沢市で悠々自適の日々を過ごしておられます。研究者とし

ては図書館史の分野を大成され、ほかにも幅広い分野で多くの著書・論文を執筆しておられます。回想録巻末の著作目録に収録されたものだけでも、図書76点(翻訳・分担執筆等を含む)、雑誌記事84点を数えます。

この日も、先生の張りのある声と抑揚ある語り口調、世界を視野に入れた話はお変わりなく、今も旺盛な研究意欲を持ち続けておられ、何冊かの著書の計画が進行中と伺いました。一方、出席者のご挨拶では、先生の酒豪ぶりにまつわる思い出も多々語られました。

会の終わりに挨拶された先生は、アイルランドなどカトリックの国の小さな教会を巡って回りたいと今後の意欲を語っておられました。そして、先生の思いとして引用された詩は、Bob Dylanの“Blowin’ In The Wind”でした。

若々しい探求心と行動力を持ち続ける藤野先生のご健勝をお祈りします。

(城谷 浩 図情大 昭和60)

☆☆☆

松村多美子先生の喜寿を祝う会

2008年9月13日(土)午後、有楽町のニュートーキョー本店ラ・ステラで、松村多美子先生の喜寿をお祝いする会を開催しました。正確には松村先生は75歳でいらっしゃいましたが、お祝い事は早めに行うのが吉例とのことで、気の早い有志で相談の上、この会を企画させていただきました。

当日は松本浩一先生をはじめ、図書館短大時代の先輩から図書館情報大平成7年卒まで40人の皆さんが駆けつけてくださいました。遠くは台湾から駆けつけてくださったり、お祝いのメッセージも多数贈っていただきました。

松村先生にはお祝いの会に先立ち、75年を振り返ってお話をいただきました。ユネスコのお仕事などでお忙しい中準備してくださり、初公開の貴重な写真など

を交え、ご自身の勉強、仕事、研究の経験を通して、後輩の私たちにとってたいへん示唆に富んだお話でした。諸事情から参加できなかった方はもちろん、参加された方からも何らかの配布を望む声も寄せられましたが、今回は還暦祝いの時の最終講義とは異なり、懇談的なものであるとして、その場だけのお話とさせていただきます。先生のお話はまた改めてきちんと残していければと思っています。

短い時間ではありましたが、昔と変わらないお元気な松村先生を囲んで、それぞれの原点を確かめる機会となりました。

(阿部信一 図情大 昭61年)



松村多美子先生の喜寿を祝う会 2008年9月13日



公開講演会を開催しました

平成20年7月19日(土)、茗溪会館(東京都文京区大塚)において、日本図書館協会との共催により公開講演会を開催いたしました。講師には国立国会図書館長の長尾真先生をお迎えし、「コンテンツの時代 -知識は我らを豊かにする-」の演題のもとにご講演をいただきました。約80名の参加者は、ユーモア溢れる講演に熱心に聴き入っていました。

長尾先生のお話は、インターネットの世界がますます発展していく中で、図書館界はどのように対処したらよいのかを考える上で示唆に富む内容でした。圧倒的なインターネットの世界を前にして、出版界は電子出版のあり方を模索し、図書館界ではどのような電子図書館を構築し、どのようなサービスをすべきかが課題となっています。このような図書館を取り巻く情報の世界について、インターネット社会、インターネット情報、電子図書館、未来の電子出版と図書館などのトピックについて現状と問題点をお話いただきました。

また、現在、インターネット上の日々ダイナミックに変化する情報をどのようにして収集・保存し、利用に供するかが大きな問題となっています。この問題に対する取り組み

として、国立国会図書館におけるインターネット・アーカイビング・プロジェクト(WARP)についてもお話いただきました。

(柿沼澄男 図短別 昭和54)



長尾真先生と森茜会長

～ 懐かしの顔ぶれが集まりました ～

◆四期会同窓の集い(図書館職員養成所 昭和28年卒)◆

開催日時: 平成20年6月5日(木)～6日(金)

会 場: 筑波大学研修センター

出席者数: 15名(新井、渡部、松井、橋本、能勢、鈴木、春原、段木、夏目、安藤、石川、糸賀、菅原、大宜見、増田)

研修センターで宿泊、懇親会を17:00～21:00までいたしました。心行くまで青春時代に戻り、全員上機嫌でした。翌日9:20～10:30まで石井啓豊教授の話、学内見学、図書館見学、記念写真(※)と十分すぎるほど現在の姿を見せて頂き、全員感激、素晴らしい大学訪問となりました。後期高齢者ばかりですから、その感情の高ぶりは如何ばかりかです。

(能勢 仁 養成所 昭和28)

※ 下段の写真

◆図書館短大テニス部昭和54年卒業生同期会「半世紀お祝い会」◆

開催日時: 平成21年1月25日(日)11時30分～14時30分

会 場: 横浜中華街「大珍楼本店」

出席者数: 9名

図書館短大テニス部の昭和54年卒業生が数年に1回集まって旧交を暖める会です。今回は満50歳となった者が多いので「半世紀お祝い会」として、旧正月で賑わう横浜市の中野街にある中華料理店「大珍楼本店」で開催されました。

以前は毎年のように図書館短大があった懐かしの、「学芸大学駅(東急東横線)」に集まっていたが、寄る年波には勝てず(?)最近3年に1回くらいとなっています。当日は9名(当時の部員15名中)が出席し、遠く長野県から駆けつけた部員もいました。おいしい中華料理に舌鼓をうち、最近の身の回りの話題や、短大時代の話でおいに盛り上がりました。

(遠藤茂樹 図短別 昭和51)



【四期会同窓の集い】
(前列左から)新井才次、渡部千子、松井貞子、橋本幸生、能勢仁、石井先生、鈴木重久子、春原幸忠、段木千子
(後列左から)菅原朝子、安藤幸子、石川美恵子、糸賀清道、菅原福、大宜見朝美

写真に写っている碑は『図書館情報大学記念碑』です。そこには、次のように記されています。

「あらゆる知識・情報を一堂に集積し、これを活用することは人類の永い夢であり、理想であった。

図書館情報大学は、大正10年開設の文部省図書館員教習所(図書館講習所)、図書館職員養成所、図書館短期大学を前身とし、新しい時代に応えるべく、昭和54年ここ筑波の地に開学した。平成14年10月にさらなる発展を目指し筑波大学と統合、平成16年3月をもって25年の歴史を閉じた。

この間、学部学生3,553名、専攻科学生39名、大学院学生498名を迎え育むとともに、図書館情報学の形成と発展に大きく寄与した。ここに記念し、碑を建てる。

平成16年3月 図書館情報大学
(橋会会報編集部付記)

～永年のご薫陶をありがとうございました～

平成 21 年 3 月をもって筑波大学（図書館情報メディア研究科）を定年退職される 3 人の先生から、退職にあたって橋会にご寄稿いただきました。

太田勝也・教授

【専門】日本史、日本史史料学【授業】専門情報・資料研究 I（歴史）、日本史概説、アーカイブ論、歴史研究と情報など【職歴】昭和 51 年図書館短期大学に奉職、昭和 55 年図書館情報大学、平成 14 年筑波大学図書館情報メディア研究科教授。

小野寺夏生・教授

【専門】計量書誌学【授業】多変量解析、用語管理論など【職歴】昭和 45 年日本科学技術情報センターに入所。技術管理室、企画室、資料部ファクトデータベース部門を経て、総務部人事部長、資料部長。平成 10 年図書館情報大学教授に就任、平成 14 年筑波大学図書館情報メディア研究科教授。

永田治樹・教授

【専門】図書館経営論【授業】大学図書館論、社会システム論、図書館論、コミュニケーション論など【職歴】昭和 46 年名古屋大学附属図書館に奉職。その後、国文学研究資料館、東京大学文献情報センター、東京大学附属図書館に勤務。昭和 63 年金沢大学附属図書館情報サービス課長、北海道大学庶務部研究協力課長、東京大学附属図書館情報サービス課長を経て、平成 6 年図書館情報大学助教授に就任、平成 10 年同教授、平成 14 年筑波大学図書館情報メディア研究科教授。

☆☆☆

時間割からの解放

筑波大学図書館情報メディア研究科・太田 勝也

昭和 51 年 11 月、東京世田谷の図書館短期大学に、教養の日本史の担当者として雇われ、その後、同 55 年 4 月に新設なった図書館情報大学に配転となり、更に、平成 14 年 10 月統合によって、筑波大学に配転となった。本人の意思には関わり無く環境が大いに変わり、図書館情報大学では、教養課程が無くなり、専門科目の担当者となって、図書館資料・知識情報に関わるようなことを主に担当することになった。

10 人程のゼミ形式の科目で、教室の特定の窓から見える光景を各人に同時に記述して提出して貰ったことがある。多少似たところはあるにしても、同じ記述は一つもなく、随分異なる記述になっていた。

歴史史料にはこのような性格のあることを学生さんに知らせると、ある学生さんは、「どの史料を使うかによって、歴史書に書かれている歴史事件が異なることになるのではないか。歴史書に書かれている事なんて、およそ当てにならないのではないか」と言う不審の念を抱いた。そこで、歴史資料 = 歴史書はそのような性格を有している、という事を常に年頭に置かなくてはならないと指摘する一方で、研究者の 1 人としてやむをえず弁明しなければならない羽目に陥る。「だから、歴史研究者は証拠を徹底的に調査することに懸命になるんですよ。歴史は社会の記憶です。社会が記憶喪失の状態で未来へ進もうとすると、極めて不安です。だから歴史研究者は、過ぎ去

った出来事について、できるだけ正確な記憶を、できるだけ多く甦らせようようと日々努力しています。」と。幸いにして、歴史事件の究明には時効が無いし、裁判官が特定されてもいない。異なる複数の頭脳が、何時迄も一つ事を追い回すことができる。裁判における時効の存在理由の一つに、〇〇年も経過すれば新たな証拠を探し出すことが困難になるから、という事があげられているそうであるが、これは歴史学と大いに立場を異にしている。歴史学にお

いては、時間が経過する程、本当と思われることが見え出すと信じられている。気がつけば歴史学の授業内容に陥ったりしている。有り難い事に、歴史好きの学生さんが多かったようで、大いに助けられてきた。このような調子で、定年退職を迎えることになった。退職後は小学校入学以来の時間割による生活から解き放たれる。起床→給食→休み時間→給食→休み時間→給食→睡眠と言う新時間割になります。わくわくします。お世話になりました。では……。

☆☆☆

退職にあたって

筑波大学図書館情報メディア研究科・小野寺夏生

我々が属する図書館情報学関係の研究科や学群・学類では、その教育・研究方針に「文理融合」を標榜しています。ホームページにも、「人文・社会・科学技術などの多様な手法を総合的・学際的に用いた研究」、「文系や理工系といった枠にとらわれず……学際的総合的に学ぶ」などの字句が見られます。しかし、学内者も部外者も、その中を「文系」と「理系」に分けて見ることが多いようです。4つの分野のうち社会とマネジメントを文系、システムと開発を理系とするのが一般です。

私は、この分け方に何となく違和感を持っています。それは、よく言われる、現代の複雑化した学問を文系・理系と単純に二分することはできないという観点からではありません。一応、文系、理系という分類を認めるとして、上記の分け方は、方法論による分け方と言えます。単純化すると、数学を使うのが理系、使わないのが文系という考え方です。

しかし、文系と理系を分けるなら、その基準は研究方法ではなく研究対象に置くべきではないでしょうか。私には、自然物、人工物に限らず「もの」を対象とするのが理系、人間の心や社会を対象にする

のが文系と考える方がしっくり来ます。そこには、対象を見る眼について明らかな相異があると思われるからです。最近の脳科学のように、両者が融合しつつある学問もありますが、これこそ「境界領域」と言うべきです（但し、保守的な私には、このような学問が人類の幸福につながるか一縷の疑問もありますが）。これに対し、方法論での分け方は極めて不鮮明です。数学を駆使する文系学問、個別観察やフィールド調査による理系研究はいくらでもあります。

この考えが許されるなら、本研究科・学群の対象は人間が生み出す情報なので、全て文系と言ってよいのではないのでしょうか。動物の叫び声や行動に含まれる情報や、ゲノム情報は理系側になるでしょうが、本研究科ではこれらはほとんど対象とされていません。

橘会会報の貴重な紙面をいただきながら、書くことに窮し、意味のない駄文でマスを埋めてきました。最後になりましたが、図書館情報大学の時代から11年間お世話になり、この間多くの方の知己を得ましたことを感謝いたします。今後ともよろしくお付き合いのほどお願いします。

☆☆☆

きちんと人々の判断に委ねよう

筑波大学図書館情報メディア研究科・永田治樹

1月は学生にとっても教員にとっても繁忙期である。それに退職が3月末だから、正月早々に出張に出かけた。共同研究討議とともにいくつか図書館を訪問調査した。最近平野美恵子の短めの報告をみたが、実践に資するこの手の話はあまり紹介されない。それとかぶらないところを紹介してみる。

一つは図書館の財源の決定に関わるものである。米国の公共図書館の財源は主に固定資産税（ときとして売上税）によっていることはよく知られている。しかし、興味深いのはその図書館分の税率は、数年ごとの住民の選挙によることである。むろん、現下のような厳しい経済状況では税収が下がるから、現状を維持しようにも以前と同じ税率の承認も難しくなるが、それはしかたがない。訪問先の一つだったアナバー市（ミシガン州）のように、幸いにしてこの税率を永久的に決めているところもある。

もう一つは、図書館の設置主体である。上述アナバーは市が図書館を展開している。しかし隣のイプシランティ図書館はディストリクト（図書館区）である。図書館区とはカウンティ（群）のもと、学区のような（同じではない）、市や町といった単位とは別の行政サービスの運営単位である。市など自治体の枠組みだと、財政が厳しくなれば、消防や警察などのサービスとの間で予算獲得の綱引きが始まり、図書館の税も保

証されにくい、ディストリクトで展開している場合は、その心配が比較的小さいとのことであった。

図書館の設置・運営はこのように、各自治体の単位でもいいし、ひとつないしはいくつかのディストリクト（日本の制度でいえば自治体の事務組合の運営が似ている）でもよい。うまくいっているディストリクト図書館に参入するという選択もある。カウンティから民間委託されていることで有名なリバーサイド・カウンティ・ライブラリー・システム（カリフォルニア州）では、カウンティ内のディストリクトが、それにいくつかの市なども、ここに図書館運営を委託している。

現在、福祉をはじめ多くの公共サービスが要請される一方で、地方財政の逼迫はどこも深刻である。その解決方法として市町村合併のような規模のメリットで行政サービスの向上が試みられている。しかしわたくしの調査した限りでは図書館サービスで成果を上げているとはいえない。わが国でも、制度としては組合立などの展開も許容されているし、もっと課題を絞れば、手法はいろいろ考えられうるだろう。

退職間際改めて、米国の草の根民主主義を確認するとともに、主体的に図書館サービスのあり方を吟味し、必要な税率や運営主体などの決定にわれわれが参加できるメカニズムの必要性を痛感した。



橘会会報への投稿を歓迎しています。

橘会会報では、学友たちの集まりのニュースを募集しています。

橘会会員が一人でも入っていれば、卒業生の集まりを紹介します。同期会、同級会、クラブの集まり、などなど。

記事投稿上の留意点

- 記事投稿者が橘会会員であること
- 記事投稿者の連絡先が明記されていること（メールアドレス or 電話）

- 字数：600字～800字
- 掲載写真：1枚（デジタル）。被写体全員の了解を必ず取っておく（橘会会報はホームページにも掲載されるので、特に注意が必要）
- 投稿先：info@tachibana-kai.com 橘会会報編集部宛（投稿は橘会ホームページお問い合わせフォームからでもできます。）
- 投稿原稿に関する橘会からの照会がある場合があります。
- 投稿された原稿は返しません。

第5回総会の概要

〈日時〉平成20年7月19日(土)

〈会場〉茗溪会館 2階会議室

〈出席者〉理事・監事を含め、約50人

〈総会次第〉

- (1) 開会挨拶(高鷲忠美会長)
- (2) 来賓挨拶(中山伸一筑波大学図書館情報メディア研究科長、植松貞夫橘会顧問)
- (3) 議長選出と議事録署名人の指名
高鷲会長が本総会議長に選出され、議事録署名人として、泉沢、竹之内、森氏の3名が指名された。
- (4) 議事
 - 1) 平成19年度事業報告
城谷理事から平成19年度の橘会事業報告があり、了承された。
 - 2) 平成19年度決算報告
鈴木理事から平成19年度の決算報告及び石井洋監事から監査報告があり、了承された。
 - 3) 第3期役員選出・名誉会長推戴
高鷲会長から森茜副会長を会長とする第3期役員(案)が提案され、了承された。引き続き、森新会長から、高鷲元会長を名誉会長に推戴し

たい旨、提案があり、了承された。遠藤副会長から、新役員の紹介があり、以後森新会長を議長として進行を進めた。

- 4) 平成20年度茗溪会代議員選出
森新会長から、茗溪会代議員については新理事会で選出し、結果はホームページで報告することが提案され、了承された。
- 5) 平成20年度事業計画
青木理事から、平成20年度の事業計画概要について提案があり、了承された。
- 6) 平成20年度予算
茂出木理事から、平成20年度予算案について提案があり、了承された。
- 7) その他
会員名簿の筑波大学への提供について提案があり、了承された。
また、森会長から、筑波大学情報学群の3学類構成について説明があり、今後の動向について見守っていきたい旨の提案があり、了承された。

(大場高志 図短別 昭和51)

平成20年度分会費納入のお願い

平成20年度分の会費につきまして、今年度未納入の会員におかれましては、下記郵便振替口座宛てに納入して下さるようお願いいたします。

なお、通常会員の会費は3,500円です。また通常会費完納者(35回分納入済みの方)には、橘会の円滑な運営のため橘会固有の協年会費2,000円を維持費としてお願いしています。

記

振込先郵便振替

口座番号 00110-5-656101

加入者名 図書館情報学橘会

会員現勢

1. 会員数

1,623 人 (平成 21 年 2 月 10 日現在)

2. 卒業校別内訳

卒業校	人数
文図教習所	1
文図講習所	79
国図附養	3
文図養成所	95
文図養成A	180
文図養成B	67
文図養成1 B	3
文図養成2 B	11
図短付養成	23
図短特養課	127
図短図書館	326
図短文献情	81
図大図情専	12
図大図情	533
図大図情修	18
図大博前期	10
図大博後期	1
筑図	47
筑博図情修士	3
筑博図後期	3
合計	1,623

注1：卒業校が複数ある場合は、最初の卒業校に分類。

注2：図短特養課には、中退1名を含む。

3. 新入会員

※以下、HP掲載では省略。

役員名簿

図書館情報学橘会 第3期役員

(任期 平成20年7月19日～平成22年7月18日)

会 長	森 茜	(短 40 別[1965] 元図書館情報大学事務局長)
副 会 長	遠藤 茂樹	(短 51 別[1976] 日本体育大学)
	寺沢 白雄	(大 59[1984] 実践女子大学)
理 事	小松 幸子	(養 40 図[1965])
	気谷 陽子	(短 48 文[1973] 筑波大学附属図書館)
	大場 高志	(短 51 別[1976] 一橋大学附属図書館)
	青木 利根男	(短 53 別[1978] 東京学芸大学附属図書館)
	小泉 徹	(短 53 別[1978] 立教大学図書館)
	柿沼 澄男	(短 54 別[1979] 国立情報学研究所)
	関川 雅彦	(短 54 別[1979] 筑波大学附属図書館)
	市村 省二	(大 59[1984] 和光大学情報センター)
	川本 清文	(大 60[1985] サン・マイクロシステムズ株式会社)
	相原 雪乃	(大 60[1985] 千葉大学附属図書館)
	城谷 浩	(大 60[1985] 日外アソシエーツ株式会社)
	茂出木 理子	(大 60[1985] お茶の水女子大学附属図書館)
	神谷 晋	(大 62[1987] 株式会社シンコー)
	和知 剛	(大 63[1988] 郡山女子大学図書館)
	村田 輝	(院 63[1988] 埼玉大学図書館)
	近藤 真智子	(大 平 7[1995] 東京大学附属図書館)
	岡田 英孝	(院 平 7[1995] 東京医科大学図書館本館)
監 事	石山 洋	(養 26[1951])
	石川 亮	(養 37[1962])
	神田 茂	(大 60[1985] 日経メディアマーケティング株式会社)

※卒業時の学校名の略

- 「養」 文部省図書館職員養成所 「大」 図書館情報大学
「短」 図書館短期大学 「院」 図書館情報大学大学院
「図」 図書館短期大学図書館学科 「文」 図書館短期大学文献情報学科
「別」 図書館短期大学特別養成課程

社団法人茗溪会支部図書館情報学橘会

〒305-8550 つくば市春日1-2

E-mail info@tachibana-kai.com

公式ホームページ <http://www.tachibana-kai.com/>

発行： 2009年3月1日